

令和5年度 福井農林高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援 教務部	①教材や学習活動等を改善し、生徒が主体的に学ぶ授業の工夫を推進する。 目標：ICT機器等も活用し、授業づくりの改善に取り組んだ教員80%以上 ②各教科・学科で自主教材を作成したり、個別に対応したりして、分かる授業の推進や学習の遅れのある生徒への配慮を図り、生徒の授業への満足度を高める。 目標：授業満足度80%以上	・デジタル採点が普及し始め、GoogleClassroomを使用して、ネット上でのアンケート調査も増えてきた。教職員間でタブレットを利用した授業やテスト実施の工夫が始まり、昨年よりも機器の活用率が増えてきたと思われる。 ・公開授業週間を3週間に拡大し、農業の授業の研究授業も若手の教員が積極的に取り組んだ。コシヒカリの開発の歴史を取り上げた独自の教材を開発して食品流通科で授業をし、タブレットも利用した授業展開で生徒の興味関心を掻き立てていたように思われる。 ただ学校での努力工夫が保護者にまでは届いていないためか、保護者の満足度が下がってしまっている。	・ICTを活用した授業を展開していくため、新入生に対して「スタディサプリ」の導入を検討し、生徒の自学自習による基礎学力の向上を行う。生徒が自主学習する上での家庭でのネット環境の整備やアプリの使用法の熟達支援が今後の課題となる。 ・基礎学力が充実してくると高校での学習内容を理解できる生徒も増えるので、生徒の授業への満足度は上昇するものと考えられる。 ・授業改善や自主教材の開発にあてるゆとりを生み出すために、支援員等への業務の移譲を新年度は進め業務改善に繋げる。
2 生徒支援 生徒指導部	①社会生活における基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識を高めさせる。 目標：全生徒の規範意識向上100%達成 ②学校行事や部活動に生徒自らが主体的に取り組もうとする態度を培わせる。 目標：学校行事・部活動への参加意識100%達成	・社会生活における基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識を高めさせる。については、生徒保護者からの意識が高く、特に生徒間での意識の向上がみられた。教員では昨年度は100%であったが若干低下したことが気にかかる。 ・学校行事や部活動に生徒自らが主体的に取り組もうとする態度を培わせる。についても、生徒が積極的に取り組み、保護者からの理解度も増加している。	・学年会・学科会との連携を図り全教職員が組織的に取り組み生徒支援を継続することにより、コミュニケーション能力や社会生活を送る上での規範意識の向上、主体的に取り組む態度の育成を図っていく。 ・規律意識を高めさせる指導については、家庭との連携をさらに深めながら生徒の意識を変えていけるよう粘り強く取り組んでいく。
3 進路支援 進路指導部	①生徒の進路意識形成を目指し、LHや特別時間割期間等の活用により計画的に進路指導を実践する。 目標：キャリア教育や進路指導の達成度自己評価アンケート80%以上 ②全校体制によるきめ細かな進路指導を行い、個々の生徒の進路実現を図る。 目標：進学就職希望100%達成	・教職員・生徒・保護者について、目標値を達成することができた。しかし、近年、進路意識の低さや興味関心の低下、進路行事に向き合う前向きな姿勢の欠如が目立つようになってきた。入学時の目標意識が低いこともあり、将来の進路実現に繋げるためには、1年次からの継続的な進路支援が必要であると感じる。また、年度によって生徒が進路実現に向き合う姿勢が異なるため、その都度、対応方法を変えながら支援する必要がある。 ・保護者が子供と進路について十分話し合えているかについては、低学年ほどその割合は低く、進路支援に関しての家庭との連携の難しさの程度が年々増加している。本年度は、3学年においても出願後に保護者の意見で生徒が混乱する状況が見られた。 ・教職員全員での企業訪問や、多くの教職員による面接指導など、全校体制による進路指導の成果が、求人企業数の大幅な増加や進路先内定・合格状況に現れている。	・年度によって生徒の進路希望や取り組み姿勢が異なるため、進路支援の取組目標や方法を大きく変えるのではなく、必要に応じて柔軟に対応する姿勢が必要である。そのためには、生徒の進路希望をこまめに把握し、担任と密な連携を築くことが第一である。 ・低学年の意識向上のために、進路関係の取り組みを行う際には、その意義や目的、将来の進路への関わりをしっかりと認識させるとともに、事後アンケートを通じた振り返り指導を徹底する。 ・年々、目的意識の低い生徒の入学割合が高くなってきていることが考えられる。3年間の継続した様々な支援時には、希望に応じた個別少数指導など、状況に応じた運営方法の工夫を図る。
4 図書指導 PTA活動 安全管理 図書庶務部	①図書館利用者及び図書貸出数の増加を図る。 目標：年間貸出1300冊以上 ②PTAの各種委員会活動を充実させ、保護者との連携を深める。 目標：PTA会報やメール連絡網等を通じた学校行事理解度80%以上 ③避難訓練や防災や安全教育などを通して生徒の防災意識や安全意識を高める。 目標：防災・安全意識80%以上	・目標の図書貸出冊数には1月時点で到達していないが、これまでに約1,200冊の貸出がある。学年末の朝読書で目標達成できるよう、引き続き読書活動の推進を図ってきたい。 ・課題研究とPTA活動をコラボするなど、新しい形でのPTA活動を模索し進めることができた。 ・他校の例等を参考に部員で検討しながら新しいHPに更新することができた。運用については、今後の課題である。 ・全校生徒、教員対象の避難訓練（防災訓練）や防災教育を実施したことで防災意識は高い。	・図書貸出し数を増やすために、ポップを活用した図書の紹介や図書配架の工夫を行い、より多くの生徒が本に興味を持てるよう努める。 ・学期毎の読書会は、全学年横並びにするのではなく、クラス毎で設定日を変えることで図書館の本をより多くの生徒が利用できるよう工夫する。 ・教職員の図書館利用率も下がっていたので、教職員に推薦図書を生徒に紹介してもらったところ、生徒への反響もよかったので今後も続けていきたい。 ・新しいホームページが完成したので、今後有効な運用方法の検討が必要である。 ・放送設備の状況を確認し、万が一の災害に備える。
5 健康管理 保健部	①健康的な規則正しい生活を送り、心と体の健康について自己管理の徹底を促す。 目標：健康管理を心がける80%以上 ②快適で清潔な学習環境の整備のため、毎日の一斉清掃の徹底を図る。 目標：校内環境美化活動に意欲的に取り組む80%以上	健康管理を心がけている生徒、保護者は数年80%を上回っている。コロナが5月から5類になったが、感染がなくなったわけではなく、インフルエンザが増えてきたこともあり感染予防の取り組みを行っていることにより、健康管理への意識や関心が継続している。 構内美化活動にも取り組む生徒・教員も90%を越えている。校舎のリノベーションも終わり美化活動に対してかなり高い状態で推移している。	・自らの健康管理を心がけることができる生徒の割合を高めるため、医療従事者や養護教諭からの講話の企画、入学時は保護者対象の保健指導、保護者懇談会などで健康管理について話題にするようすすめていくなど、従来からの取り組みを継続していく。 ・生徒の校内環境整備への意識をさらに高めるとともに、毎日の通常清掃の徹底を図るために、保健委員会の活動として清掃中の見まわりを継続実施していく。
6 スペシャリスト の育成 実習部	①課題研究や校外実習・学校行事などを通して、地域や産業界等との交流に取り組み、地域連携を深める。 目標：教員が地域との交流の大切さや農業の素晴らしさを生徒に伝える80%以上 ②資格取得を通して、生徒の学習意欲を向上させ、学科の専門性を高める。 目標：卒業時に福井フューチャーマイスター「ゴールド」70%以上認定	・今年度は、例年同様にインターンシップや校外連携活動が可能となったが、コロナ禍で活動を縮小してきた中で以前のような校外活動にはなかった。 ・今年度の3年生の福井フューチャーマイスター取得状況はゴールド以上が50.0%（昨年53.8%）と低い値となった。この学年においても資格取得の学習や受験の機会がコロナにより制限された影響が残っていると思われる。 ・今年度は全国大会（さんフェアー福井）が開催され、フラワーアレンジの運営、体験等、3年生を中心に運営を行うことができた。	・学科主任会議や実習会議において、定期的に地域や外部連携に関する話題や情報の提供を行い、教職員の積極的な活動をサポートしていく。 ・資格取得は学科間や難易度によって差があるが、各学科で3年間の取得目標を持たせ、入学時より生徒・保護者に働きかけて、計画的な取得を促す。「福井フューチャーマイスター制度」の「プラチナ」「ゴールド」の認定に向けて、生徒に学校生活全般の過ごし方を振り返らせ、保護者には資格取得の意義と検定料負担への理解が得られるように説明していく。 ・次年度は、新しいカリキュラムでの最初の卒業年度となるので、これまでとの違いを検証したい。
7 いじめ防止 いじめ対策委員会	①ホームルーム活動や学校行事、部活動等の集団行動を通して、全生徒が思いやりや助け合いの心を育てる。 ②アンケートを実施し、面談やカウンセリング等を通して、いじめの早期発見と早期解決を図る。 目標：いじめの早期発見・早期解決への取り組みについて、満足度85%以上を目指して指導する。	・生徒が思いやりや助け合いの心を持つよう指導を教員ができており、生徒同士も感じている。また、保護者の理解も得られていると感じる。しかしながら、アンケートでうまく伝えられていない生徒が3.6%と少数ながらいることを不安に感じる。 ・いじめの早期発見、解決についても、いじめ対策委員会を通して保護者との協力のもと、取り組んでいると感じる。 ・いじめについて伝えられる生徒は、生徒全体では89.1%と目標値に達し、さらに上を目指したい。 ・いじめ対策については、保護者91.9%が十分評価し目標に達した。教職員88.6%と若干低下したのが気にかかる。 ・いじめをアンケート等で伝えにくいと回答している生徒を少なくすることが今後の課題である。	・多彩な学校行事により、人間関係を学ぶ機会が多いことがよい結果につながっている。今後も自主的な集団活動を継続し、100%を目指していく。 ・少数ながらいじめをアンケート等で伝えにくい生徒がいるので、アンケートの方法をスクリーンウェアに見直し。さらに日頃からささいな兆候やサインを見逃さずに個人面談やカウンセリングを行っていく。 ・いじめ対策委員会が気がかりな生徒等の幅広い情報を共有し、学年会や学科会と連携し、未然防止・早期発見・実効的かつ迅速な解決に努めていく。

令和5年度 福井農林高等学校 学校関係者評価表

<p>(問) ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。 ・スクールポリシーを踏まえた評価となっているか。 ・その他
<p>(意見を聞く方)</p> <p>長谷川 俊基 氏 (元福井農林高等学校長) 石田 弥生 氏 (福井農林高等学校PTA副会長)</p> <p>森木 幸一 氏 (福井農林高等学校農友会事務局長) 佐々木 昭博 氏 (啓蒙公民館長)</p>
<p>○教育課程・学習指導</p> <p>通級に関わる研修やICT活用の研修等、生徒の学習理解促進や効率化にもつながり努力されている。多様な生徒に対して教材づくりなど今後もわかる授業の推進に向けて取り組んでほしい。学習向上の取り組みは、保護者にできるだけ目に見える形での工夫をお願いしたい。</p>
<p>○生徒指導</p> <p>生徒の規範意識向上は難しい課題だが、先生方の指導により生徒間の意識向上がみられたことは素晴らしいこと。今後も生活の基本をしっかりと身につける指導が望まれる。手綱を緩めず継続していただきたい。農文祭や体育祭などはどの学年も企画に参加し、コロナ禍後初めて一堂に会して開催できたことはとても良かった。今後も生徒が主体的に取り組める活動をお願いしたい。</p>
<p>○進路指導</p> <p>教職員全員での企業訪問によって、進路指導における教職員の意識の向上とともに、求人企業の増加、内定、合格に結びついているものと思う。1年からキャリア意識を育てる工夫を継続してほしい。学年会や学科会と連携しながらいろんな機会を設定してより推進してほしい。進学者の目的意識をしっかりと育てることが大切である。保護者に対しても入学時の早い段階から進路に対する意識を高める資料があると良いと思う。</p>
<p>○図書指導</p> <p>教職員の生の声で推薦図書の紹介は効果的であると思う。図書に触れる機会をつくることに有効な朝読書はぜひ継続してほしい。生徒もタブレットの活用にかなり慣れてきており、調べ学習等で効果的に活用しているようだ。ネット等も有効であるが、図書(文献)での調べも工夫してほしい。</p>
<p>○保護者との連携・安全管理</p> <p>「課題研究」とPTA活動のコラボは、地域連携や保護者の学校理解、協力意識向上の意味でも効果的と考えるHPが刷新され非常に良くできている。トップ画面に生徒の生き生きした表情が見られて雰囲気がとても良いと思う。随時の更新をお願いしたい。欠席・遅刻連絡もフォームを使ってしやすくなった。避難訓練や機器の点検など安全管理に引き続き努めてほしい。</p>
<p>○保健指導</p> <p>清掃の徹底のために、保健委員会の取り組みは生徒相互の意識付けにおいても良い効果を上げている。コロナが5類になったが健康管理への意識は継続していると感じる。今後も健康管理等の意識継続をお願いしたい。校内美化は教職員の高い意識のもと、清掃活動が徹底されており、指導の成果だと思う。</p>
<p>○スペシャリストの育成</p> <p>インターンシップや校外活動など地域連携を進めており、産業界に対する生徒の意識向上に繋がり、進路決定にも結びついていると思う。資格取得は目標を設定しやすく公的評価にもつながり、入学時から生徒、保護者に推奨し今後も計画的に取り組んでほしい。全国産業フェアや農ク北信越ブロック大会では運営に関わった生徒は素晴らしい経験をしたと思う。</p>
<p>○いじめ防止の取組み</p> <p>定期的なアンケートをもとに「いじめ対策委員会」を毎月開催し、担任や教育相談からの個人面談、情報の共有など、委員会を中心に組織的な取組がいじめの未然防止や早期発見、迅速な解決につながっていると思う。今後も、少数の意見を大切にしながら個に対応した指導をお願いしたい。</p>
<p>○その他</p> <p>農業クラブ全国大会で農業鑑定競技農業土木での最優秀賞や郷土芸能部の全国7人制大会での日本一は非常に素晴らしい結果であった。生徒の努力、教員のきめ細かい指導の成果であり、後輩生徒への励みとなっている。R6年度にはインドネシアとの交流も企画されるとのことで、より特色ある教育を進めてほしい。本校の特色ある取組をメディアでよく目にする。今後も学校の魅力を広く見える形で発信をお願いしたい。</p>
<p>(学校関係者評価を踏まえた今後について)</p> <p>福井農林高校は多くの特色ある取組を行っている。特に、地元の産業界等との連携をさらに推進し、アドミッションポリシーにある「地域社会で農業をはじめとした産業の発展に貢献しようとする生徒」の育成に努めていきたい。</p>